

花水木

Hanamizuki

特集

意識して予防する 2型糖尿病

2024
秋号
Vol.66

基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

5月12日は



看護の日

看護の心をみんなの心に

「看護の日」のポスター展示を行いました

今年は「思いやりと優しさを大切にしています」がテーマです

川口市立医療センター
イメージキャラクター 「みみたーず」
“よく聴き・よく診て・よく説明する”



意識して予防する 2型糖尿病

～市民公開講座に参加してみませんか？～



糖尿病という病気は、一言で表現するならば“インスリンの作用不足”です。インスリンは膵臓から分泌され、血糖を下げるができる唯一のホルモンであり、食事などで上昇する血糖を一定の範囲に調整しています。しかし、そのインスリンが十分に作用しなくなると正常な血糖が保てず、様々な問題を引き起こします。

インスリンの作用不足には2種類あり、インスリンそのものが絶対的に不足する『1型』と、分泌されたインスリンに対し身体が抵抗性を持ち十分に効果が出ない『2型』に分類されます。1型糖尿病は、不足するインスリンを注射で補う治療法が主となります。2型糖尿病は、過食や肥満、運動不足などが原因となることが多いため、まず生活習慣の見直しが治療の中心になります。

また、糖尿病は『血管病』とも言われます。血管が長期間高血糖にさらされ傷むことによって、様々な合併症を引き起こします。末梢神経障害（手足の痺れなど）、網膜症（視力低下・失明）、腎症（腎機能障害）といった細い血管の合併症のほか、動脈硬化の促進因子にもなり、結果として心血管、脳血管疾患などを引き起こす危険も高まります。

「それならば自分で頑張って治療すればいい」と、言うのは簡単ですが、これを難しくするのが“自覚症状の少なさ”です。人は「痛い」「苦しい」「辛い」といった症状がある病気は、なんとかして治そうと思えますが、症状の乏しい糖尿病は、自分の身体の中の変化を自覚することは難しいため、モチベーションを上げることがとても難しいのです。



2023年市民公開講座(川口市立医療センター講堂)



ブルーライトアップ(正面玄関)

現在の日本では、成人の4人に1人は糖尿病、もしくはその予備軍と言われています。ですから、糖尿病と共に生活している方はとても多く、身体の状態はもちろん、生活の状況や価値観は、ひとりひとり異なります。あらゆる方が糖尿病について理解し、今の身体の状態を悪化させることなく、安心して日々の生活を送ることができるよう支援することが大事です。そのために当院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、歯科衛生士、事務職員で糖尿病教育チームを編成し、それぞれが専門性を活かして協力し合いながら、糖尿病の方たちをサポートしています。

毎年11月14日は世界糖尿病デーで、世界中のあらゆる場所が、糖尿病と闘うキャンペーンのシンボルカラーである“ブルー”に染まります。当院でも、屋上や正面玄関のブルーライトアップを行っています。また、その時期に合わせて、糖尿病の正しい知識や予防の大切さを知っていただく目的で、2008年から市民公開講座を開催しています。2023年は、当院の医師による健康相談や栄養士による食事相談、血糖測定や血圧測定、フットケアなど、体験コーナーを中心に行いました。今年は川口市市産品フェア2024に出張し、院外で市民公開講座を開催することになりました。皆さん、ぜひご参加ください。



ブルーライトアップ(屋上)



糖尿病市民公開講座 (川口市市産品フェア 2024 にて開催)

【ものづくり、健康づくり、元気なまち川口】～意識して予防しよう生活習慣病～

会場 川口オートレース場内イベントホール(川口市青木 5-21-1)

日時 2024年10月27日(日)10～12時



専門・認定看護師による 出張勉強会



今回は、老人看護専門看護師と新生児集中
ケア認定看護師が出張勉強会に行ってきました

老人看護専門看護師

2つのグループホームに出向き、それぞれ2つのテーマで勉強会を開催しました。

①「認知症高齢者の急変対応」について

生じやすい疾患として、肺炎、骨折、脳梗塞、心不全を例に、異常時の早期発見のポイントや、一次救命処置についてお話ししました。

②「認知症高齢者の身体拘束」について

認知症の症状の特徴から、医療機関では身体拘束が行われていることに触れ、身体拘束の定義や具体的な行為、身体拘束の弊害、身体拘束以外の代替援助方法についてお話ししました。

施設からは、救急車を呼ぶタイミングや、認知症の症状が著しい時などの対応に、困難さを感じているというお話を伺いました。認知症高齢者の方のケアで重要なことは、本人の意志を尊重して「その人らしさ」を大切にすることです。「あれ?いつもと違うぞ」という、普段の様子と違う変化を捉えることが必要であり、そのためには毎日の生活援助での関わりが大切なことをお話ししました。

今後も、認知症高齢者の方への声のかけ方や、救急時の対応等についても、定期的に勉強会を開きたいというご要望もありましたので、また機会があれば連携していきたいと考えています。

新生児集中ケア認定看護師



訪問看護ステーションとオンラインで勉強会を開催しました。

「小児在宅医療」について

医療的ケア児をもっと受け入れていくために「大人と子供の違い」「子供の気管切開について」の勉強会の希望がありました。内容としては、「小児在宅医療と家族を取り巻く背景」「医療的ケア児とは」「在宅医療における大人と子供の違い」「子供の気管切開管理」について、具体的にお話ししました。

今回の勉強会を通して、改めて医療資源や子どもの在宅医療に関する思いを、訪問看護ステーションの方と共有する良い機会となりました。生活の場としての在宅医療の実際について学びを深めるためにも、今後も連携していきたいと考えています。

就任のごあいさつ



令和6年6月1日付で奥ノ木信夫川口市長より、病院事業管理者の任を命ぜられました國本聡でございます。

私は、平成28年4月より当院に副院長として着任し、また、循環器内科医として診療に携わり、平成29年4月からは院長に就任し、院務に注力して参りました。

今後は、病院事業管理者として、大塚前管理者及び諸先輩の意思を継ぎ、新たに就任した中林院長以下のスタッフと共に、更なる当院の発展に向けて尽力して参ります。

埼玉県南部保健医療圏の基幹病院として、また、地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、持続可能な病院経営を堅持し、職員一丸となって、医療の質向上と経営改善に取り組み、その使命を果たしていく所存です。

川口市病院事業管理者 **國本 聡**



令和6年6月1日付で院長に就任した中林幸夫でございます。

私は、平成16年に当院に外科医として着任以来、消化器外科を専門として医療の現場で従事して参りました。平成25年からは外科部長など診療科長としてチームを牽引して参りましたが、これからは院長として診療体制の統括的立場から院務に取り組んで参ります。

当院では令和5年度に手術支援ロボットを導入しました。手術治療に関する質と安全性の向上を求めるとともに、高度な医療をさらに提供できるよう努めて参ります。

また、緩和ケア科を開設し、患者様だけでなくご家族が直面する様々な問題を早期に見つけ、その人らしい生活が送れるように支援させていただいております。

引き続き地域の皆さまに信頼され、すべての職員が働き甲斐のある病院づくりに努めて参ります。

院長 **中林 幸夫**

就任挨拶全文はこちら



